

府 中 病 院

臨床研修プログラム

2021 年度版

府 中 病 院 臨床研修プログラム

目次

社会医療法人生長会の理念と基本方針	3
府中病院の基本方針と臨床研修の基本方針と理念	4
I. 府中病院の沿革	5
II. 府中病院と研修関連施設の概要	6
III. プログラムの名称	20
IV. 定員、収容定員	
V. プログラムの目標	
VI. プログラムの特色	21
VII. プログラム責任者と参加施設の概要	24
(1) プログラム責任者	
(2) プログラム参加施設	
(3) プログラム参加施設と研修プログラムの概要	
(4) 指導医リスト	
VIII. プログラムの管理運営体制	29
(1) 研修管理委員会の職務と権限	
(2) 研修管理委員会の構成	
IX. 研修カリキュラム	31
(1) 研修内容と到達目標	
行動目標 : 医療人として必要な基本姿勢・態度	
経験目標 : 各診療科・施設において「経験すべき診察法・検査・手技」 「経験すべき症状・病態・疾患」、「特定の医療現場」	

(2) 研修医の勤務時間	
(3) 教育に関する行事	
(4) 研修医の指導体制	
X. 研修の記録及び評価方法	・ ・ ・ ・ ・ 32
X I. 研修カリキュラム修了の認定及び証書の交付	
X II. 研修修了基準	
X III. 研修カリキュラム修了後のコース	・ ・ ・ ・ ・ 34
X IV. 府中病院臨床研修規定	
X V. 研修医の応募手続（募集要項、願書、選考基準など）	・ ・ ・ ・ ・ 36
X VI. 研修医の処遇について	・ ・ ・ ・ ・ 37

社会医療法人生長会 理念 基本方針

私たちの理念

【使命】

愛の医療と福祉の実現

【会是】

地域と職員と共に栄えるチーム

Y u ・ k i ・ t o ・ d o ・ k u ゆき届いたサービス

私たちの基本方針

【私たちのチャレンジ】

チームとして、そしてパートナーとしてチャレンジします。

健康の向上や回復を願うみなさまと、それをお手伝いする私たちは、その目的を共有するチームです。その目的の達成のために、お互いがパートナーとして情熱をかたむけ、ベストを尽くすことこそ、最良の方法であると確信しています。

3つのベストにチャレンジします。

私たちは、最適の治療（ベストキュア）、最善の心配り（ベストケア）、最高のパートナーシップ（ベストパートナーシップ）の実現を目指しています。

【私たちのお約束】

1. 私たちは、みなさまに「良質な医療を平等に提供」いたします。
2. 私たちは、みなさまに「十分なお説明」をいたします。
3. 私たちは、みなさまが「納得された上での医療」に臨んでいただけるようご協力いたします。
4. 私たちは、みなさまに「十分な情報」を提供いたします。
5. 私たちは、みなさまの「人としての尊厳」を守ります。
6. 私たちは、みなさまの「プライバシーや秘密」を守ります。

府中病院の基本方針

Excellent hospital - 最高の病院を目指す -

単に良い病院ではない、さらに良い病院でもない、めざすは最高の病院。
自他ともに認める最高の病院を目指します。

府中病院 臨床研修の基本方針と理念

「正義」ある医療の理解と実践

- 人として当たり前のことを当たり前に行える医療人の育成に主眼をおきます。
 - 社会人としての良識と常識を持ち合わせた人間形成に心がけます。
 - 常に「悩める方」の心と身体を中心に考え、周辺への心配りを忘れず、自身の心の人に導く灯りと愛をもって、人に接する精神を育みます。
 - 安心を与え、満足を得るべく、プライマリ・ケアの基盤とより高度な専門医療への道しるべを築きます。
- 一生涯にわたり、医療に従事するものとして誇りをもち、プロフェッショナルとして自覚し、いつも自身を向上させる「こころざし」を体得させます。

I. 府中病院の沿革

昭和 30 年 11 月	府中病院開設 [30 床]
昭和 32 年 11 月	第 1 期増築 [80 床]
昭和 37 年 11 月	第 2 期増築 [155 床]
昭和 52 年 4 月	第 3 期増築 [260 床]
昭和 55 年 8 月	別館リフォーム [285 床]
昭和 58 年 10 月	東第 6 病棟リフォーム [316 床]
昭和 63 年 1 月	第 4 期増築 [380 床]
平成 3 年 8 月	第 5 期増築（総合病院認可）
平成 5 年 4 月	不妊センター開設
平成 7 年 10 月	開放型病院認可
平成 11 年 1 月	（財）日本医療機能評価機構より「一般病院種別 B」の認定を受ける
平成 12 年 12 月	人工透析センター拡張
平成 14 年 8 月	回復期リハビリテーション病棟開設
平成 15 年 10 月	臨床研修病院に指定
平成 16 年 5 月	（財）日本医療機能評価機構より Ver.4.0 による「一般病院」に更新認定をされる
平成 17 年 6 月	ICU 病棟開設 [10 床]
平成 18 年 4 月	DPC 導入
平成 18 年 8 月	電子カルテ導入
平成 19 年 12 月	地域医療支援病院の名称使用承認
平成 21 年 3 月	（財）日本医療機能評価機構より Ver.5.0 による「一般病院」に更新認定をされる
平成 21 年 4 月	大阪府がん診療拠点病院に指定
平成 26 年 2 月	（財）日本医療機能評価機構(3rdG:Ver1.0)による「一般病院 2」に認定
平成 31 年 1 月	（財）日本医療機能評価機構 (3rdG:Ver2.0) による「一般病院 2」に認定

関連施設紹介

【 社会医療法人生長会 】

急性期病院

府中病院 ベルランド総合病院 阪南市民病院

回復期リハ・療養型病院

ベルピアノ病院（ベルアンサンブル内）

呼吸器ケアセンター

ベルライフケアクリニック

不妊専門クリニック
府中のぞみクリニック

健診センター
ベルクリニック 府中クリニック

介護老人保健施設
ベルアモール

グループホーム
ベルアモールハウス

看護師・助産師育成
ベルランド看護助産専門学校

高齢者向け住宅
ベルヴィオロン（ベルアンサンプル内）
ベルシャンテ

院外調理センター
ベルキッチン

地域一般診療所
和泉市立和泉診療所
ベルシャンテクリニック

複合型サービス
ベルシャンテハウス

保険外リハビリ
脳梗塞集中リハビリセンター

【 社会福祉法人悠人会 】

特別養護老人ホーム
ベルファミリア ベルライブ（ベルタウン） ベルアルプ（ベルアンサンプル）

介護老人保健施設
サンガーデン府中 ベルアルト（ベルタウン）

保育園
ベルキンダー（ベルタウン） ベルキンダー安井

Ⅱ．府中病院と研修関連施設の概要

1．府中病院

病院名	府中病院
郵便番号	594-0076
所在地	大阪府和泉市肥子町1丁目10番17号
開設者	理事長 亀山 雅男
管理者	院長 竹内 一浩

電 話 0 7 2 5 - 4 3 - 1 2 3 4 (代)
F A X 0 7 2 5 - 4 3 - 3 9 9 5
所管保健所 大阪府和泉市保健所
交通機関 *JR 阪和線・和泉府中駅下車 西口出口 徒歩 2 分
 *南海本線・泉大津駅より、
 南海バスで和泉府中車庫前バス停下車 徒歩 3 分
 *泉北高速鉄道・和泉中央駅より、
 南海バス(泉大津駅前行き)和泉府中車庫前バス下車 徒歩 3 分

< 病 床 数 > 一般病床 380 床 (うち HCU10 床、ICU4 床、回復期リハ 26 床)

< 診療科・部署案内 >

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| ● 総合診療センター | ● 神経内科 |
| ● 急病救急センター | ● 皮膚科 |
| ● リウマチ・膠原病科 | ● 泌尿器科 |
| ● 循環器内科 | ● 産科 |
| ● 血液疾患センター | ● 婦人科 |
| ● 消化器内科 | ● 眼科 |
| ● 呼吸器内科 | ● リハビリテーション科 |
| ● 小児科 | ● 麻酔科 |
| ● 外科センター(消化器外科、乳腺外科、内視鏡外科) | ● 人工透析センター |
| ● 消化器外科 | ● 糖尿病センター |
| ● 乳腺外科 | ● 内視鏡センター |
| ● 内視鏡外科 | ● 中央放射線部(画像診断部、放射線治療部) |
| ● 脊髄外科 | ● 集中治療部 |
| ● 整形外科 | ● 中央検査部 |
| ● 形成外科 | ● 病理診断科 |
| ● 脳外科・脳卒中センター(脳神経外科、脳卒中内
科、脊椎外科) | ● 臨床腫瘍科 |
| ● 心臓血管外科 | ● 精神・神経科 |
| | ● 回復リハビリテーション病棟 |
| | ● 総合診療 初診 |

< 診療指定 >

- ・ 保険医療機関
- ・ 労働者災害補償保険法
- ・ 労働者災害補償保険法による「頸脊髓損傷のアフターケア」
- ・ 地方公務員災害補償保険法
- ・ 生活保護法
- ・ 母子保健法（養育医療）
- ・ 児童福祉法（育成医療）特定疾病医療費援助事業
- ・ 小児慢性特定疾患治療研究事業
- ・ 児童福祉法による施設入所措置
- ・ 戦傷者特別援護法、結核予防法
- ・ 身体障害者福祉法による更生医療
- ・ 精神保健法（通院医療）
- ・ 原爆医療法
- ・ 公害健康被害補償法
- ・ 母体保護法
- ・ 身体障害者福祉法
- ・ 身体障害者福祉法（療養医療）

< 各種承認事項(施設基準等) >

1. 一般病棟入院基本料
2. 総合入院体制加算 3
3. 超急性期脳卒中加算
4. 診療録管理体制加算 1
5. 医師事務作業補助体制加算 1
6. 急性期看護補助体制加算
7. 看護職員夜間配置加算
8. 療養環境加算
9. 重症者等療養環境特別加算
10. 無菌治療室管理加算 1
11. 医療安全対策加算 1
12. 感染防止対策加算 1
13. 抗菌薬適正使用支援加算
14. 患者サポート体制充実加算
15. ハイリスク妊娠管理加算
16. ハイリスク分娩管理加算
17. 呼吸ケアチーム加算
18. 後発医薬品使用体制加算 1
19. 病棟薬剤業務実施加算 1
20. データ提出加算
21. 入退院支援加算

22. 精神疾患診療体制加算
23. 特定集中治療室管理料 3
24. ハイケアユニット入院医療管理料 1
25. 回復期リハビリテーション病棟管理料 1
26. 短期滞在手術等基本料 1
27. がん性疼痛緩和指導管理料
28. がん患者指導管理料イ、ロ、ハ
29. 移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
30. 糖尿病透析予防指導管理料
31. 院内トリアージ実施料
32. 夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に掲げる救急搬送看護体制加算
33. 療養・就労両立支援指導料の注 2 に掲げる相談体制充実加算
34. 開放型病院共同指導料
35. がん治療連携計画策定料
36. 排尿自立指導料
37. 肝炎インターフェロン治療計画料
38. 薬剤管理指導料
39. 地域連携診療計画加算
40. 医療機器安全管理料 1
41. 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
42. 遺伝学的検査
43. HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
44. 検体検査管理加算（Ⅰ）及び（Ⅱ）
45. 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
46. 胎児心エコー法
47. ヘッドアップティルト試験
48. コンタクトレンズ検査料 1
49. 内服・点滴誘発試験
50. 画像診断管理加算 2
51. CT 撮影及び MRI 撮影
52. 冠動脈 CT 撮影加算
53. 心臓 MRI 撮影加算
54. 乳房 MRI 撮影加算
55. 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
56. 外来化学療法加算 1
57. 無菌製剤処置料
58. 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）

59. 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
60. 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
61. 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
62. がん患者リハビリテーション料
63. エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）
64. 人工腎臓
65. 導入期加算 2 及び腎代替両方実績加算
66. 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
67. 下肢抹消動脈疾患指導管理加算
68. 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
69. 後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）
70. 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
71. 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
72. 緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
73. 網膜再建術
74. 乳がんセンチネルリンパ節加算 2
75. 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
76. ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
77. 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
78. ペースメーカー移植及びペースメーカー交換術
79. 大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
80. 腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
81. 腹腔鏡下横門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
82. 腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
83. 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
84. 体外衝撃波膀胱石破碎術
85. 腹腔鏡下肝切除術
86. 体外衝撃波胆石破碎術
87. 腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術
88. 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
89. 腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
90. 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
91. 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）
92. 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）

93. 人工尿道括約筋植込・置換術
94. 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
95. 腹腔鏡下仙骨隆固定術
96. 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
97. 輸血管理料 I
98. 輸血適正使用加算
99. 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
100. 麻酔管理料（I）
101. 高エネルギー放射線治療
102. 保健医療機関間の連携による病理診断
103. 病理診断管理加算 I
104. 悪性腫瘍病理組織標本加算

< 救急医療 >

二次救急告示病院

< 高度医療機器設備 >

- ・手術支援ロボット da Vinci Si（ダビンチ Si）
- ・放射線治療装置（シーメンス社製 ARTISTE）
- ・64 列マルチディテクターCT
- ・128 列マルチディテクターCT
- ・磁気共鳴断層撮影装置（MRI 3.0）PHILIPS 社製
- ・磁気共鳴断層撮影装置（MRI 3.0）シーメンス社製
- ・血管連続撮影装置
- ・コンピューテッドラジオグラフィー
- ・RI 診断装置
- ・診断用 X 線 TV 装置
- ・診断用 X 線装置
- ・結石破碎装置
- ・ホルミウム・ヤグレーザー装置
- ・マンモグラフィー撮影装置
- ・骨密度測定装置
- ・電子内視鏡システム
- ・超音波画像診断装置
- ・多項目自動血球分析装置
- ・生化学自動分析装置
- ・持続的血液ろ過装置
- ・連続血液成分遠心分離装置
- ・ホルター心電図解析システム
- ・トレッドミル運動負荷装置
- ・血液ガス電解質分析装置
- ・クリーンベンチ
- ・血液浄化装置
- ・バイオハザードキャビネット

< 学会認定・指定 >

- ・日本プライマリ・ケア連合学会研修施設
- ・日本内科学会教育病院
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本呼吸器学会関連施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本肝臓学会連携施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本血液学会認定血液研修施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本乳癌学会認定施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
- ・日本脳卒中学会認定
- ・日本泌尿器科学会認定専門医教育施設
- ・日本透析医学会専門医制度認定施設
- ・日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医暫定研修施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- ・母体保護法指定医認定研修機関
- ・日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
- ・日本病理学会研修認定施設
- ・日本臨床細胞学会施設
- ・日本臨床細胞学会教育研修施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・救急科専門医指定施設
- ・日本形成外科学会認定施設
- ・インプラント実施施設（一次一期再建、一次二期再建、二次再建）
- ・エキスパンダー実施施設（一次再建、二次再建）
- ・日本形成外科学会乳房増大エキスパンダー及びインプラント実施施設
- ・マンモグラフィー検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィー検診施設
- ・日本食道学会全国登録認定施設
- ・日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- ・日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設
- ・日本さい帯血バンクネットワーク登録移植医療機関
- ・非血縁者間骨髄移植・採取認定病院
- ・非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定病院
- ・非血縁者間末造血幹細胞移植認定診療科
- ・JALSG（日本成人白血病治療共同研究グループ）参加施設
- ・浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会認定血管内実施施設

日本医療機能評価機構より「一般病院 2」として認定（平成 31 年 1 月）

基幹型臨床研修病院（旧称：管理型臨床研修病院）平成 15 年 10 月 1 日に指定を受けました。

2. 研修関連施設とその概要

協力型病院・協力施設

小児科研修

1：ベルランド総合病院

病院名	ベルランド総合病院
所在地	大阪府堺市中区東山500番地3
開設者	理事長 亀山 雅男
管理者	院長 片岡 享
電話	072-234-2001 (代)
FAX	072-234-2003
郵便番号	599-8247
所管保健所	大阪府堺市保健所
交通機関	* 泉北高速鉄道・深井駅より、 南海バス（あみだ池行き）で東中学校前バス停下車 徒歩約1分 又は南海バス（北野田行き）東山車庫前バス停下車 徒歩約6分 * 泉北高速鉄道・泉が丘駅より、 南海バス（東山車庫前行き）で東中学校前バス停下車 徒歩約1分 * 南海高野線北野田駅より、 南海バス（浜寺公園前行き）東山バス停前下車 徒歩約5分
病床数	一般病床 477床

2：和泉市立総合医療センター

施設名	医療法人徳洲会 和泉市立総合医療センター
所在地	大阪府和泉市和気町四丁目5番1号
開設者	和泉市長 辻 宏康
管理者	和泉市長 辻 宏康
電話	0725-41-1331 (代)
FAX	0725-43-3350
郵便番号	594-0073
所管保健所	大阪府和泉市保健所
交通機関	* JR阪和線・和泉府中駅を下車
病床数	一般病床 307床

3：阪南市民病院

施設名	社会医療法人生長会 阪南市民病院
所在地	599-0202 大阪府阪南市下出17
開設者	阪南市長 水野 謙二
管理者	院長 藤本 尚
診療科	総合診療科、内科（一般内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、脳・血管内科）、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、泌尿器科、外科・消化器外科、婦人科、放射線科、麻酔科、皮膚科、リハビリテーション科、救急科、脳神経外科

電 話 072-471-3321
FAX 072-471-6543
交通機関 南海本線尾崎駅 下車徒歩5分
病床数 185床

精神科研修

1：久米田病院

施設名 医療法人利田会 久米田病院（昭和37年4月開設）
郵便番号 596-0816
所在地 大阪府岸和田市尾生町6丁目 12-31
開設者 理事長 利田泰之
管理者 院長 利田泰之
電 話 0723-49-6700（代）
FAX 0723-49-6709
所管保健所 大阪府岸和田市保健所
交通機関 *JR阪和線・久米田駅下車、南海本線・和泉大宮駅下車。専用バス有り
病床数 精神 494床

2：阪南病院

施設名 医療法人杏和会 阪南病院
郵便番号 599-8263
所在地 大阪府堺市中区八田南之町277
開設者 理事長 後藤田公一
管理者 院長 黒田健治
電 話 072-278-0381
FAX 072-277-2661
所管保険所 大阪府堺市保健所
交通機関 *JR阪和線・津久野駅下車、*泉北高速鉄道・泉ヶ丘駅下車
*泉北高速鉄道・深井駅下車、*専用バス有
病床数 精神 690床

3：和泉中央病院

施設名 医療法人貴生会 和泉中央病院
郵便番号 594-0042
所在地 大阪府和泉市箕形町六丁目9番8号
開設者 理事長 生谷昌弘
管理者 理事長 生谷昌弘
電 話 0725-54-1380
FAX 0725-54-1235
所属保健所 大阪府和泉市保健所
交通機関 *泉北高速鉄道・和泉中央駅下車、南海バス 約15分
病床数 206床

地域医療研修

1： 阪南市民病院

施設名 社会医療法人生長会 阪南市民病院
郵便番号 599-0202
所在地 大阪府阪南市下出17
開設者 阪南市長 水野 謙二
管理者 院長 藤本 尚
診療科 総合診療科、内科（一般内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、脳・血管内科）、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、泌尿器科、外科・消化器外科、婦人科、放射線科、麻酔科、皮膚科、リハビリテーション科、救急科、脳神経外科
電 話 072-471-3321
FAX 072-471-6543
交通機関 南海本線尾崎駅 下車徒歩5分
病床数 185床

2： 西伊豆健育会病院

施設名 医療法人社団健育会 西伊豆健育会病院（平成元年7月開設）
郵便番号 410-3514
所在地 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科138-2
開設者 理事長 竹川節男
管理者 院長 仲田和正
診療科 内科、外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、呼吸器外科、循環器内科、リハビリテーション科、人工透析センター（20床）
電 話 0558-52-2366（代）
FAX 0558-52-2369
交通機関 * JR 熱海駅より伊豆急行線「蓮台寺」駅下車、東海バス「堂ヶ島」行き乗車40分、「浜橋」停留所下車、徒歩5分
* JR 三島駅より伊豆箱根鉄道「修善寺」駅下車、東海バス「松崎」行き乗車80分、「浜橋」停留所下車、徒歩5分
病床数 78床

3： 高野山総合診療所

施設名 高野町立高野山総合診療所（旧称：高野町立高野山病院）
郵便番号 648-0211
所在地 和歌山県伊都郡高野町大字高野山631番地
開設者 高野町長 平野 嘉也
管理者 院長代理 田中瑛一朗
診療科 内科、外科、小児科、眼科
電 話 0736-56-2911（代）
FAX 0736-56-2912
交通機関 * 南海電気鉄道高野線 極楽橋駅よりタクシーで5分
病床数 2床（平成28年6月24日～）

4：雲南市立病院

施設名 雲南市立病院
 郵便番号 699-1221
 所在地 島根県雲南市大東町飯田96番地1
 開設者 雲南市長 速水雄一
 管理者 院長 大谷順
 診療科 内科、外科、整形外科、脳神経外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、
 産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科
 電話 0854-47-7500(代)
 FAX 0854-47-7501
 交通機関 *出雲縁結び空港よりタクシーで約20分

府中病院近隣地図 < 関連施設との位置関係 >

府中病院

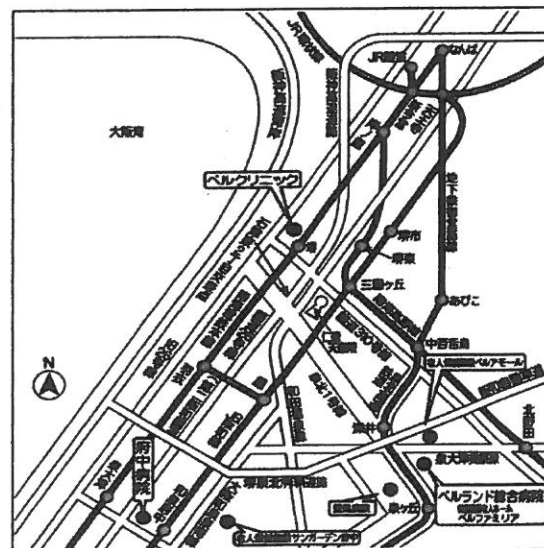
〒594-0076 大阪府和泉市肥子町 1-10-17

ベルランド総合病院

〒599-8247 大阪府堺市中区東山 500-3

専用送迎バス運行

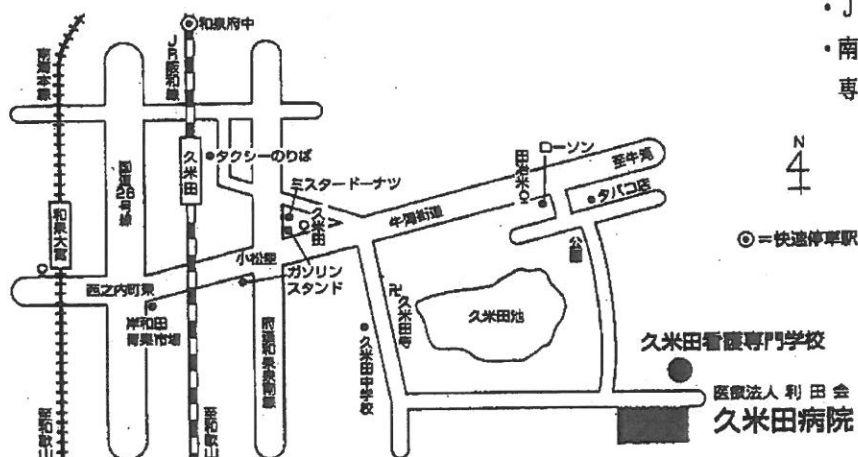
府中病院 - ベルランド総合病院 区間 (約 30 分)



医療法人利田会 久米田病院

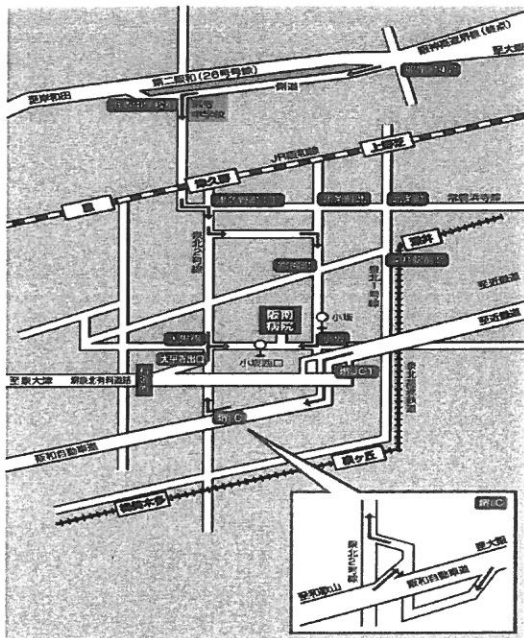
〒596-0816 大阪府岸和田市尾生町 6 丁目 12-31

※府中病院 - 久米田病院間



【交通機関】

- ・JR阪和線久米田駅下車
 - ・南海本線泉大宮駅下車
- 専用バスをご利用ください



医療法人杏和会 阪南病院

〒599-8263

大阪府堺市中区八田南之町 277

府中病院 — 阪南病院

◆ 車 : 約 20 分

◆ 電車

JR 阪和線 津久野駅 下車

南海バス

「小坂」または「小坂西口」下車

医療法人貴生会 和泉中央病院

〒594-0042

大阪府和泉市箕形町六丁目 9 番 8 号

府中病院 — 和泉中央病院

◆ 車 : 約 15 分

◆ 電車 : 泉北高速鉄道 和泉中央駅 下車

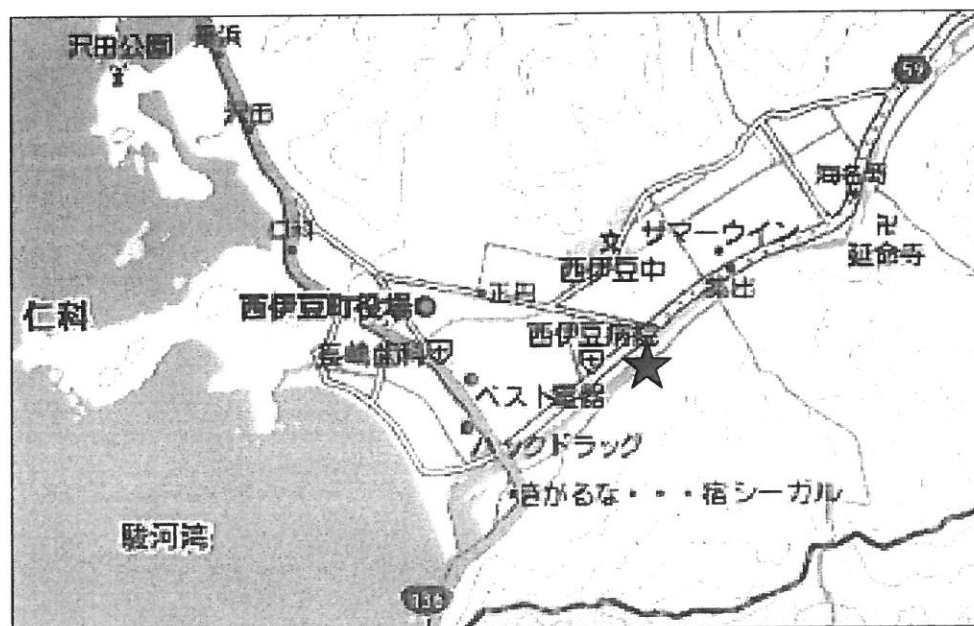
南海バス 約 15 分



和泉市立総合医療センター ※ 府中病院 — 和泉市立総合医療センター病院間
 〒594 - 0073 ◆車：約 10 分 ◆徒歩：20 分
 大阪府和泉市和気町四丁目 5 番 1 号

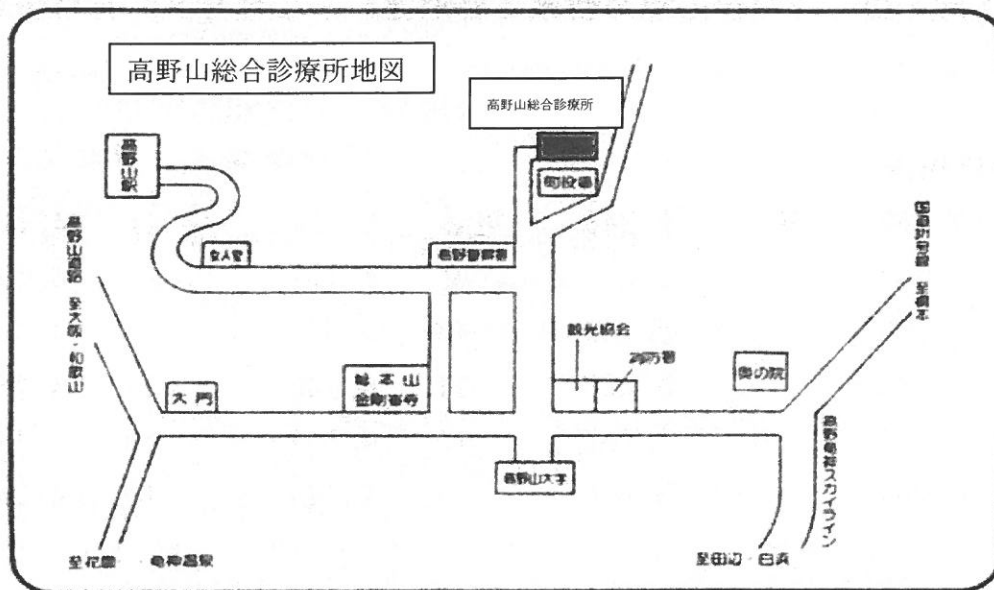


西伊豆健育会病院
 〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科 1 3 8-2



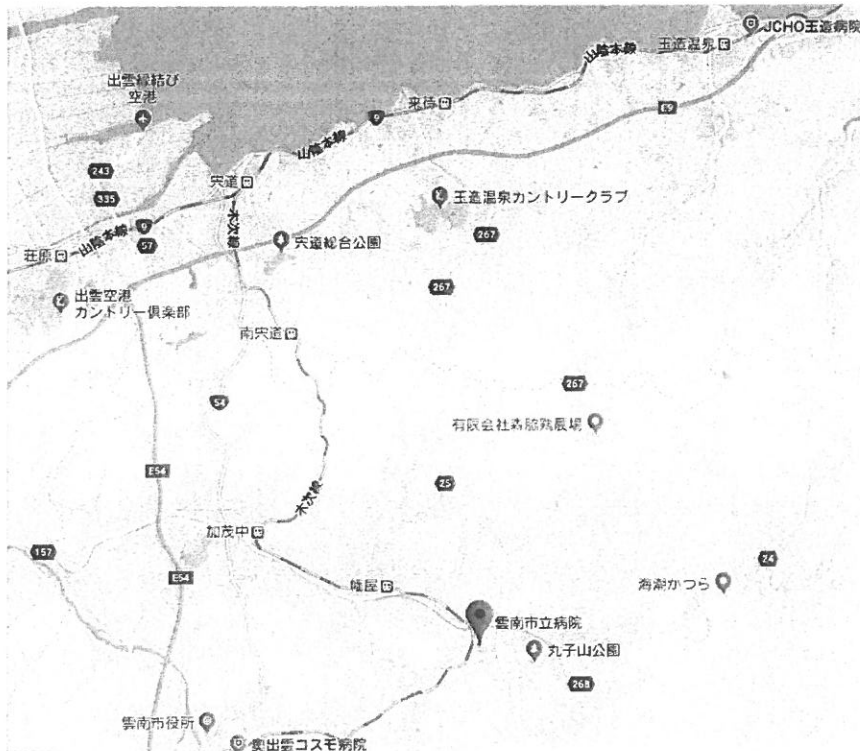
高野山総合診療所

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町大字高野山 6 3 1 番地



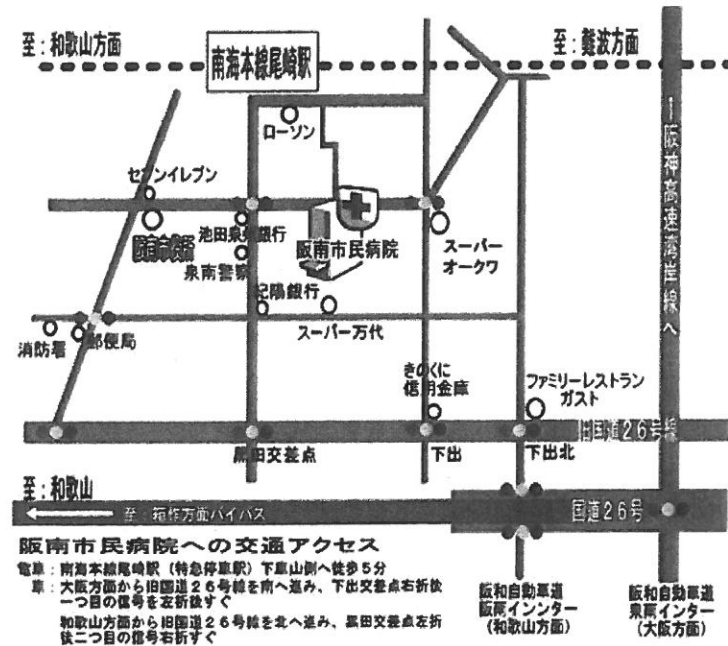
雲南市立病院

〒699-1221 島根県雲南市大東町飯田 96 番地 1



阪南市民病院

〒599-0202 大阪府阪南市下出17



Ⅲ. プログラムの名称

府中病院臨床研修プログラム（番号：030776401）

Ⅳ. 定員、収容定員

本プログラムの定員は20名(予定)とする。(1年次 10名予定、2年次 10名予定)

Ⅴ. プログラムの目標

社会医療法人生長会で働く職員全員の共有財産である‘AIF フィロソフィー’に基づき、当院の医療サービスを利用される人びと、そのご家族、そして地域社会とのパートナーシップを築きながら、有機的に働きうる研修医を育成することを目的とする。

よって、当院で研修を受けようとする研修医は、将来の専門性に関わらず、2年間の総合診療研修に専念し、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身につけるとともに、院内のチーム医療、救急医療の現場や地域の医療・福祉機関との連携などの経験を通じて、医師としての全人格教育、豊かな人間性を涵養することを目指す。

VI. プログラムの特色

本プログラムにおける総合診療方式は、現在の地域の医療需要に対応するプライマリ・ケアの能力に優れた医師を育成する研修体制であり、そのために最低限研修すべき科として必修診療科を設けている。

本プログラムでは、研修医が将来、専門でない分野における臨床経験が不十分なまま医師となるのではなく、専門分野の疾患の治療とともに、医師として患者、その家族の抱える様々な身体的、心理的、社会的問題を認識・判断し、問題解決を図ることができるような能力、いわゆる患者を全人的に診る能力を身につけることを目指している。

また、これらの診療科をそれぞれ研修する中で、チーム医療のコーディネーターとしての機能を発揮できる能力や、医師としてのコミュニケーション能力を生涯にわたり向上させる基盤を獲得することを目指している。

これらの目標の到達度は、厚生労働省の定める卒後臨床研修目標と各科の到達目標に照らして判定される。

当プログラムの研修は、厚生労働省の定める「新医師臨床研修制度」に基づき内科、外科、及び救急部門を基本研修科目として、小児科、精神科、産婦人科及び地域医療機関での研修を必修科目として行う。

基本研修および必修研修科目以外の期間は、研修医自らの希望もしくは到達目標の到達度に応じて、選択科目の研修をうける。研修期間は、原則として2年間とする。

1. カリキュラムの構成

医師臨床研修制度に基づき、内科・外科・小児科・産婦人科・精神科・救急科の6科目を必修とし、また麻酔科については2年時の自由選択枠にて2ヶ月(8週)以上研修するよう推奨している。地域医療は協力型・協力施設のいずれかで研修を1ヶ月(4週以上)行う。当院では週単位ではなく月単位での研修を行う。

■1年目ローテーションについて

必修科の内科〈総合診療科・循環器内科・消化器内科・血液内科・糖尿病内科・リウマチ膠原病科の中から2診療科を3ヶ月ずつもしくは3診療科を2ヶ月ずつ選択〉を6ヶ月(24週以上)、救急を3ヶ月(12週以上)と必修外科は一般外科を2ヶ月(8週)とし、選択枠として1ヶ月(4週)は外科系診療科〈外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・泌尿器科〉の中から選択しローテーションすることを必修にしている。

■2年目ローテーションについて

必修科目である地域医療、及び小児科と精神科も各1ヶ月(4週以上)ずつ協力型もしくは協力施設にて研修を行う。産婦人科は1ヶ月(4週以上)当院で研修を行う。

その他 8 ヶ月(32 週)は自由選択とし、研修医自らが将来を見据え、希望もしくは到達目標の到達度に応じて、選択科目の研修をうける。選択科目研修期間にて研修該当診療科および研修実施施設は以下のとおりである。当院にて研修を実施する診療科＜総合診療科・循環器内科・消化器内科・血液内科・糖尿病内科・外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・救急・産婦人科・麻酔科・放射線科・形成外科・小児科（但し小児科外来研修に限る）・透析センター・病理部・眼科・皮膚科＞協力型病院もしくは協力施設にて研修を実施する診療科＜精神科・小児科・地域医療＞但し、協力施設にて研修できる上限期間は、3 ヶ月間とする。

■CPC は府中病院にて実施する。

1 年次	内科				救急部門	外科	選択外科
	6 ヶ月(24 週以上)				3 ヶ月(12 週以上)	2 ヶ月(8 週)	1 ヶ月(4 週)
2 年次	小児科	精神科	産婦人科	地域医療	選択科		
	1 ヶ月(4 週以上)	1 ヶ月(4 週以上)	1 ヶ月(4 週以上)	1 ヶ月(4 週以上)	8 ヶ月(32 週)		

○ 選択科目

以下の診療科から希望に応じて複数科の研修が可能。

内科系 （総合診療科、循環器内科、血液内科、糖尿病内科、消化器内科）

外科系 （外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科）

上記以外（産婦人科・麻酔科・放射線科・形成外科・小児科（但し小児科外来研修に限る）・透析センター・病理部・眼科・皮膚科、協力型病院もしくは協力施設にて研修を実施する診療科＜精神科・小児科・地域医療＞）

○ 他施設研修科目および研修実施施設について

小児科研修 ： 社会医療法人生長会 ベルランド総合病院
医療法人徳洲会 和泉市立総合医療センター
社会医療法人生長会 阪南市民病院

精神科研修 ： 医療法人利田会 久米田病院
医療法人杏和会 阪南病院
医療法人貴生会 和泉中央病院

地域医療研修： 医療法人社団健育会 西伊豆健育会病院
高野町立高野山総合診療所
雲南市立病院
社会医療法人生長会 阪南市民病院

■初診外来研修について

当院では2年目研修医が各科ローテーションを問わず(必修科は除く)月3～4回程度初診外来研修として各自実際に初診外来の診療を行う。また、1、2年時とも総合診療をローテート中も指導医立ち合いのもと初診外来研修を実施しており、常にフィードバックできる体制を整えている。指導体制としては当院の総合診療センターに所属する8名の医師がマンツーマン体制で指導にあたっている。6名の医師のうち日本プライマリ・ケア連合学会の指導医および臨床研修指導医の資格を有する医師が2名、上級医が4名となっている。

2. 基本研修及び必修科と選択科の研修内容

a. 基本研修・必修診療科研修

厚生労働省の定める基準に沿って設定された研修期間ならびに到達目標であり、当プログラムにおける全ての研修医が修めるべきものである。到達目標は行動目標と経験目標からなる。

b. 選択科研修

必修科の研修を終了したものにおいて、厚生労働省の定める卒後研修目標の達成を一層充実したものとし、かつ必修科研修中に達成不十分であった目標が、2年間の研修修了時には最終的に達成しうよう選択できるものである。

VII. プログラム責任者と参加施設の概要

1. プログラム責任者

- ◆ プログラム責任者（教育責任者） 花谷 彰久：府中病院 心不全センター長
医師研修センター
初期臨床研修室長

- ◆ 副プログラム責任者 高柳 成徳：府中病院 消化器内科部長
医師研修センター
初期臨床研修室長補佐

2. 研修プログラム参加施設

基幹型臨床研修病院 府中病院

協力型臨床研修病院 社会医療法人生長会 ベルランド総合病院
社会医療法人生長会 阪南市民病院
医療法人徳洲会 和泉市立総合医療センター
医療法人利田会 久米田病院
医療法人杏和会 阪南病院
医療法人貴生会 和泉中央病院

協力施設 医療法人社団健育会 西伊豆健育会病院
高野町立高野山総合診療所
雲南市立病院

3. プログラム参加施設の連携

本プログラムによる臨床研修は主に府中病院で行われるが、小児科については、ベルランド総合病院、和泉市立総合医療センター、阪南市民病院、精神科は久米田病院、阪南病院、和泉中央病院で実施する。地域医療研修は、協力施設の各施設の中から選択して実施する。

カリキュラムでの内科研修及び外科研修における専門診療科は、診療科の体制や希望を考慮し複数科のローテーションとなる。

指導医（上級医）

研修分野	診療科	氏名	役職	出身大学 (卒年次)	資格等
外科 (選択科)	外科センター	竹内 一浩	院長	大阪市大 (昭和63年)	臨床研修指導者養成修習会（旧病院団体協議会） 平成21年度プログラム責任者養成講習会 平成26年度 第41回医学教育者のためのワークショップ 日本消化器内科学会消化器外科専門医・指導医、消化器がん外科指導認定医 日本外科学会認定医・外科専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本肝臓病学会肝臓病・肝臓外科高度技能指導医 近畿外科学会評議員 身体障害者法指定医（膀胱・直腸機能障害、肝機能障害） 兵庫医科大学臨床教育教授 日本医師会産業医
内科 (選択科)	循環器科 (心不全セン ター)	花谷 彰久	心不全センター長 医師研修センター 初期臨床研修室長	大阪市大 (平成2年)	平成22年2月大阪市立大学医学部附属病院臨床研修指導医養成のためのワークショップ 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本循環器学会循環器専門医 日本高血圧学会指導医・高血圧専門医 日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士 日本内科学会近畿支部評議員 日本循環器学会近畿支部評議員 日本医師会産業医
	消化器内科	高柳 成徳	部長 医師研修センター 初期臨床研修室長補佐	香川医大 (平成15年)	第1回臨床医職協定大学・実社会グループ臨床研修指導医養成ワークショップ 平成29年度プログラム責任者養成講習会 平成30年度第45回医学教育者のためのワークショップ 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器内視鏡学会近畿支部評議員
		土細工 利夫	副院長 内視鏡センター長	島根医大 (平成1年)	平成20年度 第2回「臨床研修指導医養成講習会」（日本病院会） 日本内科学会認定内科医・指導医、教育責任者 総合内科専門医 日本肝臓病学会肝臓専門医 大阪府肝臓医療コーディネーター 身体障害者法指定医（肝機能障害）
外科 (選択科)	整形外科	家口 尚	副院長 整形外科部長	香川医大 (昭和63年)	平成29年度第1回臨床研修指導医講習会 日本リウマチ学会リウマチ専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、暫定教育医 ESMO active member（ヨーロッパ臨床腫瘍学会） 中部日本整形外科外科学会評議員 医学博士
	外科センター	内間 恭武	副院長 外科センター長 医療安全管理室 長	大阪医大 (平成9年)	社会医療法人生会第1回指導医養成講習会 平成27年度プログラム責任者講習会 日本外科学会外科専門医・指導医 日本消化器内科学会消化器がん外科指導認定医、消化器外科専門医・指導医 日本大腸肛門病学会指導医、大腸肛門病専門医・評議員 日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器、一般外科）、評議員 近畿内視鏡外科研究会世話人 身体障害者法指定医（膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害） 近畿外科学会評議員 近畿内視鏡結腸研究会世話人 大阪市立大学医学部臨床教育教授 兵庫医科大学臨床教育教授
内科 (選択科)	循環器科	田口 晴之	副院長 循環器科部長	大阪市大 (平成7年)	臨床研修指導医養成のためのワークショップ 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本循環器学会循環器専門医・近畿支部評議員 日本心臓リハビリテーション学会治療学会認定医、専門医、施設代表医 日本高血圧学会専門医・指導医 日本医師会認定産業医
		堂上 友紀	副部長	京都医大 (平成9年)	日本病院会 平成28年度第1回 臨床研修指導医講習会 日本循環器学会循環器専門医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
		竹下 宏明	医長	大阪市大 (平成14年)	第12回 京都医療福祉大学・実社会グループ臨床研修指導医養成ワークショップ 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本循環器学会循環器専門医 日本心臓リハビリテーション学会治療学会認定医
		蒔田 直記	医長	奈良医大 (平成18年)	日本病院会第2回臨床研修指導医養成講習会 日本内科学会認定内科医
		山下 智子	医長	大阪市大 (平成21年)	社会医療法人生会第4回指導医講習会 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会循環器専門医 日本超音波文字科超音波専門医
		戎野 和之	副医長	関西医大 (平成26年)	日本内科学会認定内科医
—	糖尿病研究所	三家 登喜夫	所長	和医大 (昭和47年)	日本内科学会認定内科医・指導医 日本糖尿病学会専門医・研修指導医、功労評議員 日本消化器病学会消化器病専門医・指導医 日本内分泌学会代議員 米国糖尿病学会(ADA)会員 ヨーロッパ糖尿病学会(EASD)会員 アジア糖尿病学会(AASD)会員
内科 (選択科)	糖尿病センター	山田 正一	顧問 センター長	和医大 (昭和46年)	日本内科学会認定内科医・指導医 日本糖尿病学会専門医、功労評議員 日本糖尿病学会学術評議員 日本医師会認定産業医
		角谷 佳城	顧問 部長	和医大 (昭和55年)	平成20年度「臨床研修指導医講習会」（全日本病院協会、日本医療法人協会） 日本内科学会認定内科医・指導医 日本糖尿病学会専門医、研修指導医、近畿地方会評議員
		岡部 玲子	医長	高知医大 (平成9年)	平成30年度「第14回臨床研修指導医講習会」 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本医師会認定産業医 日本糖尿病協会産業指導医

研修分野	診療科	氏名	役職	出身大学 (卒年次)	資格等
内科 (選択科)	消化器内科	武田 修身	医長	大阪市大 (平成17年)	社会医療法人生会第2回指導医養成講習会 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医・近畿支部評議員 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医
		半野 元	医長	高知大 (平成17年)	社会医療法人生会第2回指導医養成講習会 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本消化器学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医 日本消化器学会胃腸科専門医・指導医 日本救急医学会認定ICLS・BLS-J・ALS-J 日本内科学会認定JACC(心臓)J-ACC
		益岡 優	医長	近畿大 (平成20年)	社会医療法人生会第4回指導医講習会 日本内科学会認定内科医 日本消化器学会消化器病専門医
		久松 美友紀	医長	大阪市大 (平成23年)	日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本消化器学会消化器病専門医
		南 知宏	医長	近畿大 (平成23年)	日本内科学会認定内科医 日本肝臓学会専門医
(選択科)	小児科	今田 理恵	部長	鳥取大 (平成10年)	社会医療法人生会第3回指導医講習会 日本小児科学会小児科専門医 日本産婦人科・新生児医学会新生児科「専門」コースインストラクター
		市川 陽子	医長	愛知医大 (平成12年)	平成30年度大阪府立大学医学部附属病院後援指導医養成研修のためのワークショップ 日本小児科学会小児科専門医 日本産婦人科・新生児医学会新生児科「専門」コースインストラクター
外科 (選択科)	外科センター 化学療法センター	山片 重人	乳腺外科部長 化学療法センター長	大阪市大 (平成9年)	第138回臨床研修指導医講習会 日本外科学会外科専門医・認定医 日本乳癌学会乳癌専門医・指導医 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医 乳がん検診超音波検査実地認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本乳癌学会JBCS(日本乳癌学会)学会乳癌専攻認定医(JBCS)専攻認定医
	外科センター	山添 定明	肝胆膵外科部長	和医大 (平成13年)	日本外科学会認定医・外科専門医 日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科科認定医 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医・評議員 日本胆道学会認定指導医 日本膵臓学会認定指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 近畿外科学会評議員
		岩内 武彦	医長	大阪市大 (平成14年)	社会医療法人生会第2回指導医養成講習会 日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会消化器外科専門医
		平田 啓一郎	医長	大阪市大 (平成15年)	平成26年大阪府医師会主催「指導医のための教育ワークショップ」 日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・専門医
		平川 俊基	医長	宮崎大 (平成16年)	社会医療法人生会第4回指導医講習会 日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会消化器外科専門医・消化器がん外科治療認定医 ロゼット(Rose)ファーストアシスト手術認定医 近畿外科学会評議員
		西岡 孝芳	医長	金沢医大 (平成18年)	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会消化器外科専門医・消化器がん外科治療認定医
		松谷 慎治	医長	関西医大 (平成22年)	日本外科学会外科専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・専門医
	整形外科	山田 賢太郎	医長	大阪市大 (平成14年)	日本整形外科学会整形外科専門医・脊椎脊髄病医 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 ISLS(国際腫瘍学会)active member Euro Spine(欧州脊椎外科学会)corresponding member APSS(Asia Pacific Spine Society)life member
		渡辺 享永	医長	愛知医大 (平成23年)	平成30年度第1回臨床研修指導医講習会 日本整形外科学会整形外科専門医
		谷 亮介	副医長	金沢大学 (平成26年)	
	脳神経外科センター	三橋 豊	脳神経外科部長	大阪市大 (平成3年)	平成30年度大阪府立大学医学部附属病院後援指導医養成研修のためのワークショップ 日本脳神経外科学会脳神経外科専門医・指導医 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医 日本脳卒中外科学会技術指導医 日本脳卒中学会脳卒中専門医
		福永 隆三	脳外科・脳卒中センター 顧問	阪大 (昭和53年)	新(国立)大阪府立大学・東和会グループ臨床研修指導医養成ワークショップ 大阪大学医学博士号 日本内科学会認定内科医 日本脳卒中学会脳卒中専門医・脳梗塞・TIA適正使用講習会受講 日本高血圧学会指導医 日本医師会認定産業医・健康スポーツ医
		成瀬 裕恒	脊椎外科部長	鳥取大 (昭和59年)	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医 日本脊椎外科学会認定医
		岡田 由実子	医長	大阪市大 (平成10年)	日本脳神経外科学会脳神経外科専門医
—	脳神経内科	納谷 貴之	部長	香川医科大 (平成13年)	香川大学医学部附属病院卒後臨床研修指導医養成講習会(第8回) 日本内科学会認定内科医 日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医 日本脳卒中学会脳卒中専門医

研修分野	診療科	氏 名	役職	出身大学 (卒年次)	資格等
—	腎・泌尿器科専門センター	仲谷 達也	センター長	大阪市大 (昭和54年)	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医・指導医 日本腎臓学会専門医・指導医 日本臨床腎移植学会腎移植認定医
外科 (選択科)	泌尿器科	橋本 幸司	部長	高知医大 (平成5年)	指導医のための教育ワークショップ（大阪府医師会） 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・泌尿器科指導医 日本透析医学会透析専門医・指導医・評議員 日本泌尿器内視鏡学会泌尿器内視鏡技術認定医・泌尿器ロボット 支援手術プロテクター認定医 ロボット（da Vinci）手術認定医 身体障害者法指定医（膀胱・直腸機能障害、腎臓機能障害） 大阪市立大学臨床教授
		黒木 慶和	副部長	大阪市大 (平成11年)	社会医療法人会第2回指導医養成講習会 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・泌尿器科指導医 日本透析医学会指導医・透析専門医 日本泌尿器内視鏡学会泌尿器内視鏡技術認定医 ロボット（da Vinci）手術認定医 身体障害者法指定医（膀胱・直腸機能障害、腎臓機能障害）
		小熊 一輔	医長	徳島大 (平成21年)	社会医療法人会第4回指導医講習会 日本泌尿器科学会専門医
		岡崎 祐樹	医長	大阪市大 (平成23年)	日本医師会 指導医のための教育ワークショップ 日本泌尿器科学会専門医
		加島 秀泰	副医長	大阪市大 (平成25年)	第155回全国自身体験協会臨床研修指導医講習会 日本泌尿器科学会専門医
—	中央検査部	西本 憲一	顧問	宮崎大 (昭和57年)	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・泌尿器科指導医 日本透析医学会透析専門医 身体障害者法指定医（膀胱・直腸機能障害、腎臓機能障害）
救急 (選択科)	急病救急センター	松尾 吉郎	センター長	徳島大 (昭和62年)	平成20年度第1回「大阪地区大開通病院指導医講習会」 平成24年度プログラム責任者養成講習会（厚生労働省後援） 日本救急医学会救急専門医 日本外科学会外科認定医
		西山 明秀	部長 (内科系担当)	和医大 (平成10年)	医学教育指導医ワークショップ（関西医科大学、大阪医科大学） 平成25年度プログラム責任者養成講習会（厚生労働省後援） 日本救急医学会救急専門医 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医 日本病院総合診療医学部病院総合診療医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 AHA BLS-A（心臓・呼吸・バイタル） AHA ACLS-A（心臓・呼吸・バイタル） JLS認定ファシリテーター・コファシリテーター JCLS認定ファシリテーター JMECC認定ファシリテーター 日本医学の未来学会CVCファシリテーター
内科 (選択科)	血液疾患センター	栗谷 安津子	センター長	大阪市大 (昭和59年)	臨床研修指導医養成のためのワークショップ 日本血液学会血液専門医・血液指導医・評議員 日本内科学会認定内科医・指導医 近畿血液学会地方会評議員 大阪市立大学医学部臨床教授 ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター
		市原 弘善	医長	高知医大 (平成16年)	平成29年度大阪府立大学医学部附属病院臨床研修指導医養成のためのワークショップ 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本血液学会血液専門医・指導医 日本腎臓・パンク公益財団法人日本腎臓・パンク調整医師 細胞治療認定管理師制度協議会細胞治療認定管理師 日本医師会認定産業医
		白神 大志	医長	藤田衛生大 (平成23年)	日本内科学会認定内科医 日本血液学会血液専門医
(選択科)	眼科	下村 嘉一	統括部長	大阪大 (昭和52年)	平成20年度近畿大学医学部附属病院臨床研修指導医養成のためのワークショップ 日本眼科学会名誉会員・指導医・専門医 日本眼感染症学会前理事長 日本コンタクトレンズ学会名誉会員 日本角膜炎学会理事・名誉会員 日本角膜移植学会理事・名誉会員
		三島 壮一郎	部長	近畿大 (平成11年)	社会医療法人会第1回指導医養成講習会 日本眼科学会専門医
		立花 都子	医長	近畿大 (平成4年)	日本眼科学会専門医
		服部 秀嗣	医長	聖マリアンナ医大 (平成17年)	日本眼科学会専門医
		上野 寛	医長	近畿大 (平成23年)	日本眼科学会専門医
(選択科)	麻酔科	森 正信	部長	奈良医大 (平成10年)	第13回臨床研修指導医養成のためのワークショップ 日本麻酔科学会麻酔科指導医・麻酔科専門医 ICD制度協議会日本集中治療医学会推薦（インシデント・レスポンス） 日本医療情報学会医療情報技術師 日本医療機器学会第2種臨床技術士・医療機器検定（インサージ） ヒューマンアカデミーチャイルドマインダー 麻酔科指導医
		崔 成重	医長	山科大 (平成20年)	社会医療法人会第4回指導医講習会 日本麻酔科学会麻酔科認定医・麻酔科専門医 麻酔科指導医
		山田 裕樹	医長	三重大 (平成21年)	日本麻酔科学会麻酔科専門医 日本救急医学会救急科専門医 麻酔科指導医
		増茂 薫	副医長	関西医大 (平成24年)	日本麻酔科学会麻酔科認定医 麻酔科指導医

研修分野	診療科	氏名	役職	出身大学 (卒年次)	資格等
産婦人科 (選択科)	産婦人科	山崎 則行	婦人科部長	徳島大 (昭和56年)	臨床研修指導医養成のためのワークショップ 日本産科婦人科学会産婦人科専門医・産婦人科指導医 母体保護法指定医 兵庫医科大学臨床教育教授
		三橋 玉枝	副部長	大阪市大 (平成4年)	社会医療法人生会第2回指導医養成講習会 日本産科婦人科学会産婦人科専門医・産婦人科指導医 日本産科婦人科学会胎産専門医・指導医 母体保護法指定医 日本産科婦人科学会新生児科生法「専門」コースインストラクター
		西岡 嘉宏	副部長	札幌医大 (平成9年)	平成29年北海道医師会指導医のための教育ワークショップ 日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本がん治療認定機構認定医 日本婦人科連合学会専門医・指導医 日本内視鏡外科学会婦人科内視鏡専門医・指導医 日本産科婦人科内視鏡学会婦人科内視鏡専門医・指導医・教育指導専門医 日本産科婦人科学会胎産専門医 日本産科婦人科学会胎児専門医 日本産科婦人科学会胎児専門医
		木下 弾	副部長	徳島大 (平成12年)	日本医師会「指導医のための教育ワークショップ」 日本産科婦人科学会産婦人科専門医 母体保護法指定医
		中西 健太郎	医長	兵庫医大 (平成12年)	社会医療法人生会第3回指導医養成講習会 日本産科婦人科学会産婦人科専門医
		浜崎 新	医長	大阪市大 (平成14年)	臨床研修指導医養成のためのワークショップ 日本産科婦人科学会産婦人科専門医 母体保護法指定医 日本産科婦人科学会胎産専門医(母体・胎児)
		石田 美知	医長	兵庫医大 (平成15年)	日本産科婦人科学会産婦人科専門医
		稲垣 聖子	副医長	広島大 (平成24年)	日本産科婦人科学会産婦人科専門医
		酒井 亜貴子	副医長	兵庫医大 (平成24年)	日本産科婦人科学会産婦人科専門医
(選択科)	中央放射線部 (新設診療部)	石井 清午	画像診断部長	和医大 (平成8年)	第13回産科金グループ臨床研修指導医養成講習会 日本医学放射線学会放射線診断専門医
		坂本 秀登	画像診断部 副部長	岡山大 (平成13年)	社会医療法人生会第3回指導医養成講習会 日本医学放射線学会放射線診断専門医 PET核医学認定医 検影マンモグラフィ読影認定医
		澤 宗久	画像診断部 医長	川崎医大 (平成18年)	日本医学放射線学会放射線診断専門医
(選択科)	形成外科	林 いづみ	部長	大阪市大 (平成7年)	平成21年VHJ機構指導医養成講習会 日本形成外科学会専門医
		濱澤 夏樹	副医長	大阪市大 (平成26年)	
	皮膚科	吉岡 啓子	部長	大阪市大 (昭和61年)	社会医療法人生会第1回指導医養成講習会 日本皮膚科学会皮膚科専門医
	病理診断科	保坂 直樹	部長	関西医大 (平成1年)	平成24年度関西医科大学臨床研修指導医養成講習会 日本病理学会病理専門医研修指導医・認定病理医 日本臨床細胞学会細胞診指導医・細胞診専門医・教育研修指導医 日本臨床検査学会臨床検査管理医 日本臨床分子形態学会評議員 死体解剖資格認定
	緩和ケア科	太田 忠信	部長	島根医大 (平成5年)	臨床研修・臨床実習指導医のための教育ワークショップ(日本医師会) 平成16年度第31回 医学教育者のためのワークショップ 平成17年度プログラム責任者養成講習会(厚生労働省後援) 日本医師会認定産業医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本血液学会血液専門医・血液指導医・近畿血液学会地方会評議員 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・認定指導医 日本緩和医療学会緩和ケア基本教育指導者資格取得 ICU協議会日本感染症学会難病インフォメーションコントロールドクター
内科 (選択科)	総合診療センター	津村 圭	センター長 医師兼センター顧問	大阪市大 (昭和52年)	日本内科学会認定内科医・指導医 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医 家庭医療後期研修プログラム(ver.2.0) プログラム責任者 日本産科婦人科学会産婦人科専門医 日本医師会産業医
		西村 光滋	副部長	愛知医大 (平成15年)	平成26年神戸大学医師臨床研修指導医講習会 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医
		小林 勇介	医長	兵庫医大 (平成18年)	平成28年度日本医師会「指導医のための教育ワークショップ」
		賀束 大輔	医長	大阪市大 (平成19年)	平成29年度 第2回 臨床研修指導医講習会 日本外科学会外科専門医 日本心臓血管外科学会心臓血管外科専門医 日本血管外科学会血管ステントグラフト実技医
		村上 義郎	医長	福井大 (平成20年)	平成30年度日本医師会「指導医のための教育ワークショップ」 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会消化器病専門医
		石田 丈貴	医長	神戸大 (平成22年)	平成30年度第149回臨床研修指導医講習会 (主催：公益社団法人全国自治病院協議会) 日本救急医学会救急科専門医 日本内科学会認定内科医 日本救急医学会認定ICLS1/ICLS2/ICLS3 日本内科学会JACC認定介入ドクター

Ⅷ. プログラムの管理運営体制

当院の臨床研修を管理運営する体制として、そして、研修医をあらゆる面で評価し、サポートできる組織として、プログラム責任者（教育責任者）と当院各科責任者及び各協力施設の指導責任者他、看護部長、管理部長（事務責任者）等によって構成された「研修管理委員会」を設ける。

1. 研修管理委員会の職務と権限

- ① 研修管理委員会は本プログラムによる研修医の臨床研修目標達成に責任を持つ。
- ② 研修管理委員会は研修医の採用選考、研修カリキュラムの検討、研修指導医の決定を行う。
- ③ 研修管理委員会は研修施行に関する各施設及び診療科への連絡、指導を行う。
- ④ 研修管理委員会は研修実施の評価と認定の指導を行う。
- ⑤ 2年間の研修修了時に研修管理委員会は、総合診療方式における基本的研修目標の達成度を判定し、これを院長に報告する。院長は研修修了と目標達成についての最終判定を行い、研修修了証を交付し、その結果について厚生労働大臣に報告する。

2. 研修管理委員会の構成：

	氏 名	役 職	所属診療科（部署）
委 員 長	竹内 一浩	院 長	
副委員長	花谷 彰久	センター長	心不全センター
書 記	大西 由希子	課 長	医師研修センター
委 員	土細工 利夫	副 院 長	消化器内科
委 員	家口 尚	副 院 長	整形外科
委 員	田口 晴之	副 院 長	循環器科
委 員	内間 恭武	副 院 長	外科センター
委 員	三家 登喜夫	所 長	糖尿病研究所
委 員	山田 正一	センター長	糖尿病センター
委 員	角谷 佳城	部 長	糖尿病センター
委 員	津村 圭	センター長	総合診療センター
委 員	太田 忠信	部 長	緩和ケア科
委 員	麥谷 安津子	センター長	血液疾患センター
委 員	今田 理恵	部 長	小児科
委 員	山片 重人	部 長	外科センター
委 員	山添 定明	部 長	外科センター
委 員	三橋 豊	センター長	脳外科・脳卒中センター
委 員	福永 隆三	顧 問	脳外科・脳卒中センター

委 員	成瀬 裕恒	部 長	脳外科・脳卒中センター
委 員	納谷 貴之	部 長	リハビリテーション科
委 員	播本 幸司	部 長	泌尿器科
委 員	下村 嘉一	統括診療部長	眼科統括診療部
委 員	三島 壮一郎	部 長	眼科
委 員	山崎 則行	部 長	婦人科（産婦人科）
委 員	石井 清午	部 長	画像診断部(中央放射線部)
委 員	森 正信	部 長	麻酔科
委 員	林 いづみ	部 長	形成外科
委 員	吉岡 啓子	部 長	皮膚科
委 員	保坂 直樹	部 長	病理部
委 員	松尾 吉郎	センター長	急病救急センター
委 員	西山 明秀	部 長	急病救急センター
委 員	西本 憲一	顧 問	中央検査部
委 員	高柳 成徳	部 長	消化器内科
委 員	柳原 貫太郎	初期臨床研修医	初期臨床医代表
委 員	松永 真実	部 長	看護部
委 員	松田 有裕	部 長	管理部
委 員	野村 真美	部 長	クオリティー管理センター
委 員	谷川 崇	副部長	診療技術部・管理部
委 員	田中 学	副部長	管理課・管理部
委 員	高橋 陽一	室 長	感染制御室
委 員	柄 綾乃	主 任	医療安全管理室
委 員	山本 奈穂	リーダー	医師研修センター

研修実施責任者			所属機関内役職名	所 属 機 関 名
委 員	冲永 剛志	部 長	部 長	ベルランド総合病院
委 員	坂東 賢二	部 長	部 長	和泉市立総合医療センター
委 員	利田 泰之	院 長	院 長	久米田病院
委 員	黒田 健治	院 長	院 長	阪南病院
委 員	生谷 昌弘	理 事 長	理 事 長	和泉中央病院
委 員	藤本 尚	院 長	院 長	阪南市民病院
委 員	仲田 和正	院 長	院 長	西伊豆健育会病院
委 員	田中 瑛一朗	院長代理	院長代理	高野山総合診療所
委 員	西 英明	院 長	院 長	雲南市立病院

有 識 者	備 考
外部委員 泉谷 良	和泉市医師会 会長 泉谷クリニック 院長
外部委員 渡邊 敬子	和泉市民 地域代表

IX. 研修カリキュラム

(1) 研修診療科別 各科研修カリキュラム (別添: 36 頁以降参照)

(2) 研修医の勤務時間

勤務時間は、病院の規定により常勤医と同様（午前 8 時 45 分～午後 5 時 15 分）までとする。

日・祝日を含む 4 週 8 休制。

時間外勤務・当直業務あり。

有休休暇、夏期・年末年始の休暇有り

(3) 教育に関する行事

研修開始時オリエンテーション	(約 2 週間)
BLS/ACLS	(入職後 1 年以内の受講)
CPC	(年間約 6 回以上開催)
各種スキルアップ講習会	(年間約 10 回開催)
モーニングレクチャー	(毎週 1 回開催)
ランチョンセミナー	(毎月 2 回開催)
感染対策講演会	(毎月 1 回開催)
医療安全研修	(定期開催)
院内感染対策に関する教育研修	(定期開催)
サービスクリエーション 21	(12 月)
(法人内 TQM 活動発表会)	
若手医師のための特別講演会	(年間約 4 回以上開催)
緩和ケア講習会	(2 年次に受講)
アドバンス・ケア・プランニング	(年間約 1 回以上開催)
医療倫理研修	(年間約 1 回以上開催)
ハラスメント研修	(年間約 1 回以上開催)
看護部主催コース別勉強会	(随時)

(4) 研修医の指導体制

当院では、各科研修医 1 名に対し原則として担当指導医 1 名とする。指導は基本的に厚生労働省が認めた指導医講習会を修了した医師が担当する。疾患や病態によっては随時現場医師や上級医からの指導や指示を受けることができるよう、現場経験重視型の研修体制を取る。担当指導医は研修医がローテートする各診療科・部門の指導責任者と連絡を密にし、研修医の評価や指導について適宜検討し、研修医に目標を達成させるために連携する。全ての指導医は、プログラム責任者によって統括・管理され、研修管理委員会に集約される。研修管理委員会は、研修医が一貫した研修指導を受けられるよう指導医の調整や、診療科間及び施設間の研修環境の整備、研修医からの相談窓口としての対応など、様々な面で研修医をバックアップできるよう心がけている。

X. 研修の記録及び評価方法

研修医の基本的診療能力の到達度は各研修分野・診療科ローテーション時に適宜指導医が EPOC2 (E-Portfolio of Clinical training) などの評価システムと研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価を行い、それらの評価結果に基づいた形成的評価（フィードバック）を随時行う。到達目標未達成の項目や各評価レベル 3 に達していない場合は残りの研修期間で到達できるように面談し計画を立てる。研修修了時には EPOC2 と研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲすべての評価を総合的に判断し、達成度判定票を記載し、各科責任者による総括的評価が行われる。また 1 年に 1 回、基本的臨床能力試験も行っている。診療能力以外の評価として研修医は研修評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを含む 360 度評価によって指導医からだけでなく、同僚の研修医、看護師等メディカルスタッフや患者からも評価を受ける。研修医は自らの研修過程を研修医手帳に記録する医師研修センターは定期的に研修医手帳を確認し、研修の進捗状況を把握するようにしている。プログラム責任者はこれらの記録や評価をもとに定期的に研修医と面談し、適切なフィードバックを行っている。

X I. 研修カリキュラム修了の認定及び証書の交付

2 年間の臨床研修修了後に、研修管理委員会は基本及び必修研修目標の達成度を判定し、これを統括責任者である病院長に報告する。病院長は研修修了と目標達成についての最終判定を行い、研修修了証を交付し、その結果については厚生労働大臣に報告する。

XII. 府中病院初期臨床研修医に定める研修修了基準

制定 2015 年 4 月 1 日

改定 2020 年 4 月 1 日

府中病院初期臨床プログラムでは、初期臨床研修医が行うべき研修の修了認定基準を下記のとおり定める。

1. 厚生労働省の定める経験すべき症候 29 項目と経験すべき疾病・病態 26 項目の病歴要約に考察を加えたもの、CPC レポート、外科レポート、その他 3 項目（死亡診断書・紹介状・紹介状の返書）全てを指導医へ提出の上、確認署名を得ていること。
臨床研修到達目標は、医師法 16 条の 2 第 1 項に規定する臨床研修に関する省令の「臨床研修の到達目標－別添 1」に基づき、「経験すべき症候、疾病・病態」が 100%経験され、かつ EPOC2 に入力されていること。
2. 病歴要約レポート提出について各期日までに定められた枚数の病歴要約レポート提出を必須とし、研修診療科で経験した病歴要約レポートはその診療科の指導医に確認を受けること。
病歴要約レポート提出期限は、最終年度の 12 月末日までとする。ただし、最終年度の 1 月～2 月に小児科・産婦人科・精神科・地域医療で経験すべき項目の提出期限は 2 月末日とする。
3. 病理解剖は研修期間内(2 年間)に必ず 1 回は参加すること。
また、CPC 発表も研修期間内(2 年間)に必ず 1 回は行うこと。
4. 研修期間内(2 年間)に必ず院外の学会等で発表を年 1 回以上行わなければならない。
※学会等とは…全国的な学会や研究会、複数の都道府県にまたがる地方会とする。
定期的・継続的に開催されていないもの、私的なもの及び都道府県単位の地方会は含まない。
5. 必修科である内科 6 ヶ月(24 週以上)と救急 3 ヶ月(12 週以上)、外科 2 ヶ月(8 週)と選択外科 1 ヶ月(4 週)を 1 年目の間に履修し、2 年目は必修科である地域医療と小児科、産婦人科、精神科を各 1 ヶ月(4 週以上)ずつ履修すること。
6. 研修期間(2 年間)を通じた休止期間の上限は 90 日(通算)とする。
(研修施設において定める休日は含まない)
7. 研修医に必須参加としている勉強会や講習会(CPC や総合栄養管理委員会勉強会等々)は必ず参加すること。
当直帯対応や、やむを得ない事情で欠席する場合は事前に医師研修センターまで届け出る
こと。
8. 健康診断や予防接種については適宜連絡し、必要であれば必ず受けること。
9. 上記の履修を修了した臨床研修医を対象に、達成度判定票を用いて報告を行い、研修管理委員会での議を経て研修管理委員会委員長(府中病院長)が適格者を認定し、臨床研修修了

証を授与する。

10. 前条に掲げる履修を修了できなかった臨床研修医については、引き続き研修期間の延長を行い同一プログラムでの研修を行うこと。

なお、一般の研修医よりも長い期間研修を行ったとしても、修了時の資格は同等である。

XⅢ. 研修カリキュラム修了後のコース

2年間の臨床研修修了後の進路は、研修医の希望を聞き、当法人の状況に照らし合わせて、研修医がさらに上級の研修や専門医を目指して当法人の医員となるのか、または他施設（基幹病院、大学院進学など）へ進むかなどの進路について適切に対応する。尚、特定の大学等に偏った進路指導は行わない。

XⅣ. 府中病院 臨床研修規定

（目的）

- 第1条 この規定は、府中病院において、医師法第16条の2で規定する臨床研修の適正かつ円滑な実施をはかることを目的とする。

（臨床研修医の資格）

- 第2条 昭和43年法律47号による改定後の医師法の規定により、医師免許を取得した者に限定する。

- 第3条 臨床研修医（以下、「研修医」とする）は別に定める募集要項により、応募者の中から選考の上、最終的には病院長が採用を決定し、理事長が承認する。

- 第4条 研修医の身分は、病院の常勤職員とし、初期臨床臨床研修室に所属する。

- 第5条 研修医の勤務時間は、職員の勤務時間に準じ、平日・土曜午前8時45分～午後5時15分とする。但し、研修カリキュラムによって、時間外勤務及び日祝日の宿日直勤務を命ずる場合がある。

- 第6条 研修医の報酬は、当院の職員給与規定に基づき、月額で支給される。基本給は1年次、2年次ともに350,000円。当直料を別途支給することとし、各種保険（健康保険、厚生年金保険、雇用保険）への加入が適用される。尚、アルバイトは禁止する。

第7条 研修医の福利厚生は、他の病院常勤職員（医師）と同様の取り扱いとする。

（研修施設と臨床研修期間）

第8条 臨床研修は、府中病院の他、ベルランド総合病院、阪南市民病院、和泉市立総合医療センター、医療法人利田会久米田病院、医療法人杏和会阪南病院、医療法人貴生会和泉中央病院、医療法人社団健育会西伊豆健育会病院、高野町立高野山総合診療所、雲南市立病院で行い、研修期間は原則として2年間とする。所定の臨床研修を修了した者には、研修管理委員会はその研修成果を考慮し、臨床研修修了証を授与する。

第9条 委員長は研修管理委員会を招集し、臨床研修の効果的な実施と各関連施設間、及び診療時間での円滑な連絡と協同臨床研修を図るものとする。

（災害補償）

第10条 研修医の公務上の災害（通勤災害も含む）に対する補償については、労働者災害補償保険法（昭和22年法第50号）の定めるところによる。

第1版 2003年5月1日

第11版 2020年4月1日

XV. 研修医の応募手続（募集要項、願書、選考基準など）

臨床研修医募集要項

府 中 病 院
院 長 竹内 一浩

当院は、医師法第16条の2第1項に基づく厚生労働大臣の指定する臨床研修指定病院として下記のとおり研修医を募集いたしますので、ご希望の方は出願手続をお取り下さい。

記

- 【 研修期間 】 2021年4月1日より2年間
- 【 研修内容 】 厚生労働省の基準を満たす府中病院臨床研修プログラムによる2年間の総合診療研修
- 【 募集人数 】 9名
- 【 応募資格 】
 - 1) 2021年医師免許取得見込み者（国家試験合格後正式採用）
医師臨床研修マッチングプログラム参加者
 - 2) 医師免許取得後1年未満の者
- 【 応募手続 】 下記の書類を添えて提出締切日までに当院指定の宛先まで送付すること
 - 1) 履歴書
 - 2) 初期研修申込書

※ 1)、2)は当院所定の用紙にて作成すること。病院ホームページからダウンロード、もしくは当院より郵送案内も可能。ご希望の方は下記の連絡先まで問い合わせください。
- 【 応募締切 】 履歴書・初期研修申込書受付締切（郵送）

2020年 7月31日 （消印有効）

【 選考基準 】 面接・筆記試験

【 郵送先および問い合わせ 】

■ 郵送先 〒594-0076
大阪府和泉市肥子町1丁目10番17号
府中病院 医師研修センター 宛て

■ 問合せ先 府中病院 医師研修センター
電 話 0725-43-1234
E-mail kenshu@fh.seichokai.or.jp

XVI. 研修医の処遇について

府中病院では、研修医の処遇を以下のように定める。

身分 常勤(正規)職員

給与 基本給 1年次 350,000 円 2年次 350,000 円
当直手当、他賞与等は別途支給

宿舍 有 (単身用)
病院内に研修医共用室 有

社会保険・労働保険等

公的医療保険 (生長会健康保険組合)
公的年金保険 (厚生年金・大阪府病院年金基金)
労働災害補償保険法適用
雇用保険 (常勤職員に準じる)

健康診断 年2回 (予防接種等は適宜実施)

研修活動 参加可 活動費用 (病院規定内で一部負担)